

CLTで非木造需要開拓を

SAMURAI集成材でRC造代替

山佐木材

山佐木材（鹿児島県肝属郡、佐々木幸久社長）は、大・中型木造物件向け構造用集成材、ビルダー対応の杉・桧小断面などの供給を手掛けるが、将来の

もう一つの事業の柱にするべく力を入れて取り組んでいるのが杉CLTとSAMURAI集成材だ。

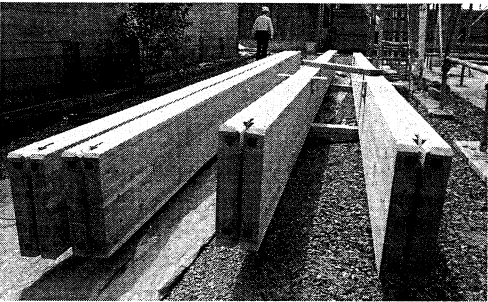
佐々木社長は「国産材業界はKD材、小断

適な材料となるが、できれば構造用集成材のシェアを分けるのではなく、木造高層ビルはもちろん、RCの高層ビルの床（スラブ）など、これまで木材が利用されてこなかった分野でCLTを活用していく考えだ。

また、RC造建築の代替として提案しているのが、SAMURAI集成材だ。これは杉・桧の集成材の材長（繊維）方向に少量の鉄筋を挿入すること

杉CLTの生産体制も着々と準備が進んで

で、RC部材に匹敵する高剛性・高耐力の構造性能を発揮するもの。鹿児島大学の塩屋晋一教授が開発した。既に山佐木材下住工場内に試作棟も完成し、デモンストラーションの意味もあり、あえて



杉CLTとSAMURAI集成材(写真)で、非木造分野での木材・国産材利用を拡大する

2015年(平成27年)4月23日(木)
日刊木材新聞

いる。同社は14年6月18日、18階スパンの大梁を採りに杉CLTのJAS認定を取得しているが、本命は全層幅はぎ評価取得を経過から、RCウッドプラインありの供給。このため、昨年秋には高周波連続幅はぎプレス装置（太平製作所）も導入した。杉CLTは屋根を平面にしやすいため、例えばコンビニエンスストアなどに最